

授賞報告

第三回作用素環賞について

平成 11 年有志の発案と寄付により「作用素環後援会」が発足し、作用素環およびそれに関連する分野の若手研究者を励ます目的で「作用素環賞」が設けられました。この賞は 4 年に一回「上記の分野の進展に著しく貢献した 40 歳以下の研究者」で、「原則として、日本国籍をもつ者か、または日本居住者で、日本の大学、研究所を主要な活躍の場としているもの」に授与されます。

「作用素環賞委員会」では、平成 19 年夏に第三回作用素環賞候補者の推薦を作用素環論、作用素論の研究者に広く呼びかけ、鋭意選考を進めて参りましたが、このたび

小沢 登高 氏 (東京大学)

を第三回作用素環賞受賞者に決定し、平成 20 年 11 月 21 日、大阪教育大学で開催された作用素論・作用素環論研究集会において授賞式を行いました。作用素環賞委員会では、同氏の「離散群論に関連した II_1 型 von Neumann 環の構造に関する業績には著しいものがあり作用素環論の発展に寄与するところ大であると高く評価」致しました。小沢氏には、賞状、賞金 30 万円およびメダルが授与されました。なお、受賞者のもっと詳しい業績については、「数学通信」第 13 巻第 2 号の河東氏の記事「小沢登高氏の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞に寄せて」をご覧ください。

(作用素環賞委員会委員長 日合文雄)